

特色2 未来を担う子どもたちへの新規施策の主なものは

- ①市内三中学校全てが来年一月の三学期より給食が完全実施されます。
 - ②PTA活動を支援するための活動補助金が新設されます。
 - ③児童手当が拡充されます。少子化対策として又健全な発育を支援するための多くの施策が組み込まれています。
- 又、前原市は発達障害支援を先進的に取り組んでいることが評価れ、文部科学省により全国で一〇地域の中の一つとしてモデル地区に指定されました。
- 学術先進都市を目指す前原市にとって大きなはずみになるはずです。



特色3 地場産業振興策として新規に取り組む主なものとして

- ①地域ぐるみで環境を守る活動として「農地・水・環境保全対策事業」が実施され、この活動費を支援します。
- ②地産・地消、食育推進を図るため「農力を育む基本条例」が制定され実践活動が始まります。

特色4 新しいまちづくりを推進するためには

- ①地域内分権を推進します。
 - ②「まちづくりセンター(仮称)」を開設してNPO及びボランティア情報センターと就職相談室の両方の機能を持つ拠点施設として市民の皆様へ開放します。
 - ③市役所内の組織を変え、積極的に新しい前原市づくりを推進します。
例えば、健康推進、母子健康を担う「健康づくり課」や企業誘致、立地計画を専門的に「企業立地課」などです。
 - ④波多江駅及び前原駅前への放置自転車の解消に努めます。
- 全国ほとんどの地方自治体が国が推進する三位

夕張市の「二の舞は」グメン！

一体改革に伴う地方交付税の大幅削減で厳しい財政運営を強いられています。これからの地方自治は『経営』という認識で対処してゆかなければ成り立たないということです。

夕張市が破たんしに追い込まれました。これから先いくつかの地方自治体が同じ状況になるや予想もつきません。我が前原市においても例外ではないのです。

◆夕張市が破たんした理由として

- ①収支計画があいまいな施設建設への過大な投資
- ②急激な人口減
- ③交付税頼りの財政運営

等が考えられますが、要するに収入と支出のバランスを欠いた結果だといえます。

従来通り国からの補助金が満額で支給されていれば事情は別ですが、医療・福祉を始めとする市民サービスに因るため支出は年々増加して行きます。

市民プール・総合運動公園等、社会インフラ整備も必要です。これら市民の要望に因えてゆくため、支出内容の見直しと経費の削減は必要不可欠なことは当然で、断固実行せねばなりません。

ただ行財政改革による歳出削減には限度があります

「みんなで作る元気な前原」実現のため、又持続可能な前原市を次世代に残すためにも必要な投資は欠かせません。

前原市活性化策(その1)

―はまぼつを活用した観光ルートの創設と農業・商業の振興策―

泉川流域に自生するはまぼつが九州最大の群落地であることはあまり知られていないようです。はまぼつはアオイ科の植物でフヨウやハイビスカスと同じ仲間です。七月中旬から下旬にかけて淡黄色の美しい花を次々と咲かせます。実に見事です。一度見てください。泉川にはほかにも生きた化石で絶滅危惧種に登録されているカブトガニの産卵地として、又世界に僅か数百羽しかいないといわれ、これも絶滅危惧種のクロツラヘラサギが飛来するなど、この一帯は優れた自然環境が保持されています。